

# 令和8年度 学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：00000

「学ぶ力」	
実態	成果
	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識・技能の習得を通して、日常生活をより豊かにするための課題解決学習を意識できるようになった。また、社会との繋がりを感じることでより自分ごととして深い学びへと結びつけることができた。</li> <li>自分のことばで表現し、説明していくことで、思考力や表現力を伸ばそうとする姿勢がみられた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組の意欲や学習習慣の個人差によって成果の差が大きく、個別指導を必要とする生徒が見られ、毎時間対応できないことが多い。</li> <li>単元によっては活動や取組に時間がかかるため、ICTを活用することによって効率的に情報共有したり、授業計画を見直すなどの工夫が必要である。</li> </ul>
	<p>「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題</p> <p>◇札幌市の共通指標の「人の意見を聞いて、それを参考にして自分の考えを見直すことがある」など知識の習得に関連する項目について、授業に集中し、意欲的に取り組んでいるとする割合が高く、各教科からの成果として、課題への準備や整理された表現ができるようになり、グループで助け合いながら表現活動ができていることがあげられている。今後も意欲的な学習姿勢や表現する力の向上を目指した取り組みの継続が重要となる。</p>
「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力	
生徒が自主的に学習の見通しをもち、自己の課題に意欲的に取り組むことができる力	
取組	課題探究的な学習の推進 に向けて
	<ul style="list-style-type: none"> <li>サイクルの前提として個々の知識、思考力、表現力が望まれるので、個々の「覚える」という力を向上させる。</li> <li>Anticipation（見通し）題材の導入時にゴールを明確にすることで、生徒も教員も同じ目標に向かって学習を進める。</li> <li>Action（行動）互いの活動や作品を参考にしたり、長所を見つけて伝えることでモチベーションを高める。</li> <li>Reflection（振り返り）交流したことから更に考えや技能を深めたり広げたりする。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>インテロダクション</li> <li>リフレクション</li> <li>個別探究</li> <li>協働探究</li> </ul>
取組	自治的な活動の充実 に向けて
	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇よりよい学級・学年にするための活動の充実</li> <li>・学級、学年、係会活動の充実</li> <li>・生徒による問題提起と解決のための活動の実施</li> <li>◇自分たちの日常生活を振り返る機会の設定</li> <li>・全校集会・学年集会での生徒企画と実施</li> <li>・学校評価アンケートや学期ごと、年度ごとの反省と目標設定の実施</li> </ul>
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを用いて互いのアイデア（作品の発想・構想）や、活動の様子を見せ合い、具体的なイメージをつかめるようにする。</li> <li>ICTを活用したグループ学習により、新たな視点や周りの意見や考え方に触れる機会が増やすことで自ら課題発見につなげ、その課題を解決するヒントを得る。</li> </ul>

## 本プログラムの実行に向けて

